専門医へつなぐ
食物アレルギー診療

田中裕也（たなか小児科アレルギー科院長）

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から３営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/ をご参照ください。

▶登録手続

summary ―― p2

1. 食物アレルギーの総論 ―― p3

2. 食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎 ―― p6

3. 即時型食物アレルギー ―― p8

4. その他の食物アレルギー ―― p15

▶販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

© 日本医事新報社 2024　著作権法上での例外を除き、無断複製・転載は禁じられています。

summary

1 食物アレルギーの予防

・乳児期の湿疹をスキンケアで十分にコントロール。

・離乳食開始時期を遅らせない。

2 食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎

・最初に行うのはステロイド外用薬を用いた標準的なスキンケア。

・上記で改善が得られない場合にアレルギー検査を行い，原因食品の除去で症状の改善を確認する。

3 即時型食物アレルギー

・必要最低限の除去＝的確な診断。

・除去すべき食品は除去し，必要な栄養摂取を確保する。

・アレルギー症状時対応。

・学校園での除去指導・指示。

・耐性獲得のための可能な限りの摂取。

・他のアレルギー疾患のコントロール。

4 専門医へ紹介するタイミング

・高リスク症例（アナフィラキシー既往がある，感作が強い：クラス2以上）。

・複数抗原へのアレルギーがある症例。

・5歳以上の鶏卵・牛乳・小麦アレルギー（自然寛解が期待できず，経口免疫療法など専門的なマネジメントが必要となる場合がある）。

・食物依存性運動誘発アナフィラキシーや乳幼児消化管アレルギーについては，疑いがあれば専門医への紹介が望ましい。

© 日本医事新報社 2024 著作権法上での例外を除き、無断複製・転載は禁じられています。

1. 食物アレルギーの総論

食物アレルギーとは「食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象」[1] と定義される。

(1) 分類 (表1) [2]

食物アレルギーには臨床型分類があり，IgE依存性と非IgE依存性に大別される。一般的に食物アレルギーといえばIgE依存性であり，乳児期によくみられる即時型食物アレルギーと，食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎は重要である。一方，食物依存性運動誘発アナフィラキシー (food-dependent exercise-induced anaphylaxis：FDEIA) や口腔アレルギー症候群 (oral allergy syndrome：OAS) は学童期以降に好発する。非IgE依存性には新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症が分類される。

表1 IgE依存性食物アレルギーの臨床型分類

臨床型	発症年齢	頻度の高い食物	耐性獲得（寛解）	アナフィラキシーショックの可能性	食物アレルギーの機序
食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎	乳児期	鶏卵，牛乳，小麦など	多くは寛解	(+)	主にIgE依存性
即時型症状（蕁麻疹，アナフィラキシーなど）	乳児期～成人期	乳児～幼児： 鶏卵，牛乳，小麦，ピーナッツ，木の実類，魚卵など 学童～成人： 甲殻類，魚類，小麦，果物類，木の実類など	鶏卵，牛乳，小麦などは寛解しやすい その他は寛解しにくい	(++)	IgE依存性
食物依存性運動誘発アナフィラキシー（FDEIA）	学童期～成人期	小麦，エビ，果物など	寛解しにくい	(+++)	IgE依存性
口腔アレルギー症候群（OAS）	幼児期～成人期	果物，野菜，大豆など	寛解しにくい	(±)	IgE依存性

FDEIA：food-dependent exercise-induced anaphylaxis, OAS：oral allergy syndrome　（文献2より転載）

(2) 疫学

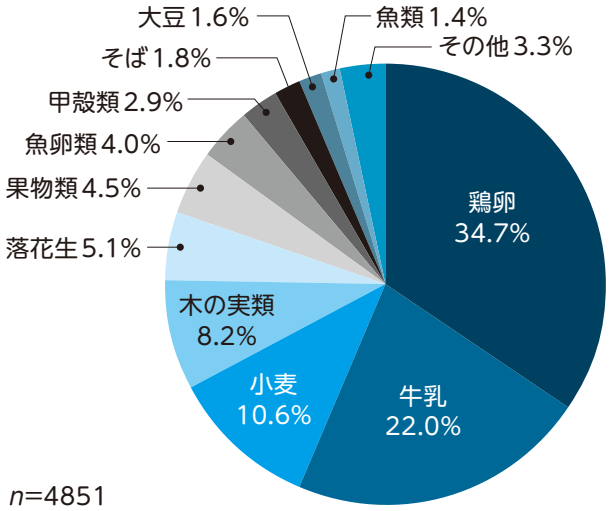
調査方法によっても異なるが，即時型食物アレルギーの有病率は乳幼児期で5～8％，学童期以降は2～5％と考えられる。

© 日本医事新報社 2024　著作権法上での例外を除き、無断複製・転載は禁じられています。

即時型食物アレルギーは乳幼児期の発症が多く，鶏卵・牛乳・小麦が三大原因食物である（**図1**）[3]。しかし，世代別に新規発症の原因食物は大きく異なり，幼児期になると木の実類，学童期は果物類のアレルギーが多くなる（**表2**）[3]。近年，カシューナッツやクルミなど，木の実類のアナフィラキシーが増加している。

症状としては皮膚症状が最も多く，ほとんどの症例で認められる。続いて呼吸器症状，粘膜症状，消化器症状と続き，ショック症状は11％である[3]。

図1 即時型食物アレルギーの原因食物の内訳



（文献3より転載）

表2 新規発症の原因食物

	0歳（1356）	1，2歳（676）	3~6歳（369）	7~17歳（246）	≧18歳（117）
1	鶏卵 55.6%	鶏卵 34.5%	木の実類 32.5%	果物類 21.5%	甲殻類 17.1%
2	牛乳 27.3%	魚卵類 14.5%	魚卵類 14.9%	甲殻類 15.9%	小麦 16.2%
3	小麦 12.2%	木の実類 13.8%	落花生 12.7%	木の実類 14.6%	魚類 14.5%
4		牛乳 8.7%	果物類 9.8%	小麦 8.9%	果物類 12.8%
5		果物類 6.7%	鶏卵 6.0%	鶏卵 5.3%	大豆 9.4%

各年齢群ごとに5％以上を占めるものを上位5位表記　（文献3より転載）

© 日本医事新報社 2024 著作権法上での例外を除き、無断複製・転載は禁じられています。